

2010年4月20日(火)

// 日仏共同シンポジウム  
// 日仏会館1階ホール

# 食の安全と自給 を目指す産直の 取り組み

東アジア・北米・ヨーロッパ連合の比較研究

共催：フランス在外研究所 UMIFRE 19 CNRS-MAEE、  
フランス国立農業研究所 INRA UMR Innovation、  
CRCJR (レンヌ第2大学)  
後援：Réseau rural français、Montpellier SupAgro



MAISON  
FRANCO-  
JAPONAISE

日仏会館

日仏会館フランス事務所  
フランス在外共同研究所  
UMIFRE 19 CNRS-MAE  
〒150-0013  
東京都渋谷区恵比寿 3-9-25  
Tel : 03-5421-7641  
Fax : 03-5421-7651  
Homepage : www.mfj.gr.jp  
参加希望の方は contact@mfj.gr.jp  
にお申し込み下さい。



9 : 30 — 13 : 00

同時通訳付き

// 9 : 30

開会の挨拶

マルク・アンペール (フランス在外共同研究所  
UMIFRE 19 CNRS-MAEE 所長)

主催者挨拶

セミナーの目的と課題の説明

アンペール - 雨宮 裕子  
(フランス在外共同研究所研究員 / レンヌ第2大学)

フランスメンバーの紹介

ユナ・シフォロー (モンペリエ INRA 国立農業大学校研究員)

// 10 : 00

1・国際的視点から

司会進行、概論：マルク・アンペール

// 10 : 30

食の安全に関する法制度の比較考察

— 日本、ヨーロッパ連合、アメリカの場合  
高橋 倭二 (食品法の専門家、東京大学農学部大学院講師)

// 11 : 15 — 小休止

// 11 : 30

中国の食農政策—'作られる'安全性と市民の取り組み  
吉川 成美 (早稲田環境塾プログラムオフィサー)

// 12 : 15

ネブラスカ (カナダ) での CSA の創設と  
北海道での CSA 創設—経験から考える課題  
の普遍性と実践のお国ぶり

レイモン・エップ (有機農業の生産者、夕張、  
長沼 [CSA] メノビレッジ経営者)

// 13 h — 昼休み

14 : 00 — 17 : 00

同時通訳付き

// 14 : 00

2・ケーススタディー  
地産地消を目指す市民のネットワーク

司会進行、概論：アンペール - 雨宮 裕子

// 14 : 30

フランスの社会運動ネットワークの分析—  
産直の発展を支える鍵は何か

ユナ・シフォロー  
(INRA フランス国立農業研究所研究員)

アラン・ドゥージェンヌ  
(CNRS、モンペリエ社会学研究センター元所長)

// 15 : 15

30年を超える兵庫県市島町の有機農業運動の変遷と  
有機を志す新規就農者が市島を選ぶわけ  
池上 甲一 (近畿大学教授、農業経済学)

// 16 : 00 — 小休止

// 16 : 15

AMAP (農民農業を支える会)  
の拡大に伴う農民の生産活動の変容  
ドミニック・パデュレル

(モンペリエ INRA フランス国立農業研究所研究員)

17 : 15 — 18 : 00

仏語、日本語字幕付き

映画上映

ユナ・シフォロー (モンペリエ、INRA フランス国立農業大学校) の学生たちが、カナダとオーストラリアで撮った地産地消をテーマにしたフィルムの鑑賞